

# 北野大氏と語る環境・教育

設になっていて、それが環境教育に結びついているのです。また、この他にも、狭山市では環境に対するいろいろなことを考えていらっしやいますね。生ごみの堆肥化や「ノーレジ袋デー」も全国に先駆けて実施していますね。とても総合的に環境問題に取り組んでいらっしやると思えました。

## 環境問題解決のためのまちづくり

**市長** ありがとうございます。積極的に進めていきます。**北野** 国連環境計画に「グローバル500賞」といって、世界的に環境に貢献した市町村や個人が対象で、努力を讃えられる賞があります。日本では北九州市、四日市市などが、公害がひどかったのをよく改善したとして認められ、受賞しました。狭山市もダイオキシンの問題や緑の再生に一生懸命取り組んでいらっしやるから、いずれこういった賞の候補になるかもしれません。**市長** それは励みになりますね。私は、いずれ「環境塾」の

ような組織を作り、子どもから大人までが環境問題を自由に議論し合い、その中で専門家の先生にいろいろなことを教えていただけるような場を作りたいと考えています。環境問題が今どんな状況で、その問題に対して地域でどんな形で取り組めば良いか、ということを考える場作りです。

**北野** いいですね。市長、こ



子どもから大人まで、大勢の地域住民が参加し、実績を上げている「不老川クリーン作戦」

れは、町内対抗で実施すると良いかもしれませんよ。一番簡単に比べられる電気の使用料などを競うとか。そうやって市民にやる気を与えていくと良いですね。競うことでさらに促進されます。それにそのような組織ならば、行政から働きかけるだけではなく、住民の中から出てくる意見も吸い上げられると思います。

## 環境の素養を持った人材を育てる環境教育

**市長** 私は、環境問題に対して、ドイツなどのように小さいうちから学校の中で自然体験をさせることが一番効果

的だと考えています。

**北野** 私もそう思います。環境教育、環境学習は小さいうちからやる必要がありますね。小学校に入るまでは原体験というか、自然にふれる喜びを大切にしていきたい。

そして小学校・中学校になると「なぜ？」ということを考え出すんです。その後、高校・大学では、自分で答えを導き出すようになります。私は大学で原子力発電のことを教えますが、「原発が良いか悪いか」ではなく、原発とはこういうもの」という事実を教えるんです。そして、科学的な理解のもとで自分で判断するんです。判断の後に必要なのが「行動」です。そして最終的には、行動を持続していくこと。このように環境教育を進めていくと良いと思います。幸い、狭山市には狭山稲荷山公園や智光山公園、里山など、美しい自然がたくさん残っていますから、子ども達の原体験が得やすい環境だと思います。

**市長** そのとおりですね。私も大切なのは高校生から大学生のころだと思えます。自分の将来をある程度考え、具体的に判断ができる歳ですから、その時期に自分の関心のある分野で、その知識を高められる仕組みを作っていきたいです。そうすれば、その分野で伸びる人材がもっと増えて

# 特集 市長新春対談



対談に先立ち、狭山稲荷山公園を散策する、北野大氏と町田狭山市長。自然の原体験を得られる、美しく整備された公園

いくのではないのでしょうか。  
**北野** これからは、環境の素養を持った人材が増え、新しい業種がもつと出てくると思います。社会の需要はあるのですから、人材を育てることは学校の責務なのです。

**市長** そうですね。私はさらに、自分たちが住んでいる環境が他と比べてどんな状況なのかを比較できるようにする必要があります。子どもは子ども同士、大人は大人同士、学生はそれぞれに、国内だけでなく海外との比較や意見交換ができる仕組みが必要だと考えています。  
**北野** なるほど。市長、私が最近、特に思うのは、環境問題

の本質というのは貧困である」ということです。狭山市もアメリカや中国、韓国と姉妹都市や友好交流都市の締結をしています。そういう提携を、発展途上国とも結んで、その生活を多くの市民に見せていただきたいと思います。環境問題の原点を理解しないといけないと思うのです。日本がいかに恵まれた豊かな暮らしをしているかという現実を見ていただきたいと思います。環境に対する取り組みをドイツなどの環境先進国で学び、現実を発展途上国で見ると、体験することが大切で、これが環境問題に対する意識を培う原点だと思えますね。

**市長** おっしゃるとおりです。  
**未来を担う子ども達・少子化に対する危機感**  
**市長** さて、昨今の少子化の進行に、私は「日本の将来がどうなるのか」という不安を持っています。

**北野** ええ、私も将来に対して三つ不安を持っています。一つは少子化、残り二つはエネルギーと食料の自給率の低さです。2001年の合計特殊出生率は1.33人ですからあまりにも少ない。江戸時代から近年までの日本の行政では、増える人口にどう対処するかがすべてでした。しかし現在の行政は、減る人口にどう対処するかを考えなければなりません。これまでとは全く逆の考え方を要求されます。

**市長** これに対して、何か良いヒントはないでしょうか。  
**北野** 何とか少子化に歯止めをかけなければ、いけないですね。結婚した女性はだいたい2人くらいは生んでくれているので、結婚しない女性が増えてきたのが大きな原因の一つだと思えます。  
**市長** そうしますと、子どもを安心して生み、育てられる環境を行政が作るのが重要ですね。そして、幼児虐待などが多くなっていますから、親としての責任感も持ってもらいたいと思います。私は個人的に、3歳くらいまでは家

庭で親子の愛情を十分育んでいただきたいと思っています。  
**北野** 私毛まつたく同感です。こういうことを言うと誤解されそうですが、私個人は、できれば子どもが中学生までは、お母さんに家にいて欲しいです。ちょうど私たちは戦争で父親が亡くなった世代ですから、母子家庭で育った人が多いのです。だから同世代の人と子ども時代の話になると、家に帰ると真つ暗で寒くて、鍵を開けて電気を点けておふくろが帰ってくるのを待っていたのが、何とも辛かったです。と言つ人が多いんですよ。この歳になつても幼児体験が残っているんです。私は、ただいま、つて子どもが帰ってくると、お母さんが「お帰り。」つて返事をしてくれるのが、家庭の温かみだと思えます。経済的な問題などで、働かなくては仕方ないということも分かりますが。

**市長** そうですね。そうできるような施策を考えていかなければいけませんね。同じ年齢の子ども同士でも、育つ環境によって全然違います。

持っています。

環境によって全然違います。

環境によって全然違います。